

# SHOW HEY シネマルーム

★★★

## 黒い家

1999 (平成11) 年11月9日鑑賞

Data

監督：森田芳光

出演：大竹しのぶ／西村雅彦／田中

美里／内野聖陽／小林薫／

石橋蓮司

### 👁️👁️ みどころ

「自殺でも保険金が出るの？」—保険金詐欺をめぐる恐ろしいお話。  
大竹しのぶの熱演に感動・・・というより恐かった。

#### <保険金詐欺>

この映画のテーマは「保険金詐欺」。より具体的には、大竹しのぶ扮する菺田幸子が、保険会社の社員、若槻真二に対して投げかけた、「自殺でも保険金は下りるのか？」という論点をめぐって、繰り広げられる、人間の欲と金のからんだコワイ、コワイ物語だ。

幸子は前夫との間にできた子供である和也を連れて、小学校の同級生だった幼なじみの菺田重徳と結婚している。幸子は手首に何本もの傷をもっており、重徳も指の切断で、障害給付金を受け取ったという奇妙な過去がある。そして幸子からの「自殺でも保険金は下りるのか？」という、若槻社員への問い合わせの翌日、重徳から保険会社にクレームが入り、自宅を訪れた若槻社員は、幸子の息子である和也の首吊り死体を見る羽目となる。以降、おどろおどろしい世界が展開していく。

若槻社員とその恋人の心理学者、黒沢恵はまともな人間だが、大竹しのぶの「菺田幸子」も、西村雅彦の「菺田重徳」も見るからに変なヤツ。2人ともそろって、「さすが演技派俳優！」と感心させられるほど役になりきっており、実にコワイ。若槻社員を演じる内野聖陽は、最近ミュージカル「エリザベート」で一路真輝のパートナーとして、「トート(死)」役に抜擢されるほどの人気俳優だが、この映画では、善良な小心者(いや、小心ではなく

これが普通か・・・)の保険会社の担当者をうまく演じている。

映画のストーリーは一切省略するが、とにかくキーワードはコワイ映画ということに尽きる。包丁をもった大竹しのぶの狂気じみた顔を見ると、一晩中、その顔を忘れられなくなりそう。恐いオバサンは、気が強いだけでなく本当に力も強いから、並の男では力づくでもやられそうなほど強く、かつコワイ。

弁護士という職業柄、また具体的な私の仕事上でも、保険会社の依頼事件がたくさんある関係上、「保険金詐欺」めいた事件は、いくつか担当したが、いずれもその真相解明は極めて難しい。

しかし、この映画のような事件に巻き込まれることだけは、とにかくゴメンだと痛感させられた作品である。

コワイけれども一見の価値ありの作品だ。

2001(平成13)年9月記